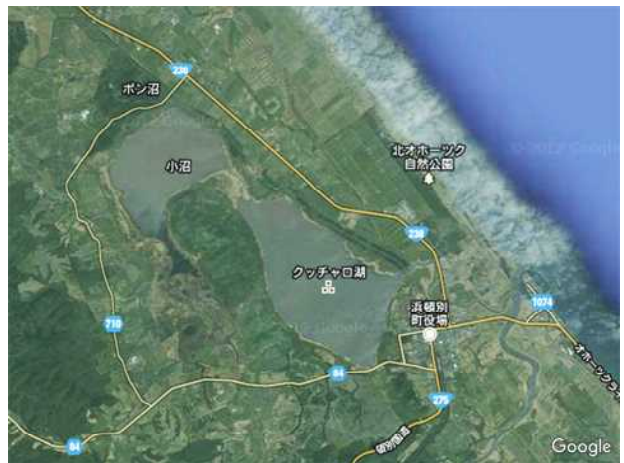


・クッチャロ湖 (1133) ・ 浜頓別町

45・7・56N 142・20・57E



積雪の頃



結氷した湖と越冬する白鳥たち

1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	3	3	1	1		2
コハクチョウ	431	453	385	402	330	400
類合計	434	456	386	403	330	402

2. 選定地の状況

北海道北部に位置し、1989年に国内第3番目にラムサール条約に指定された湖。国内で越冬するコハクチョウの中継地として、春と秋に数千羽が飛来する。春は4月中旬～下旬、秋は10月中旬～下旬が多い。温暖化の影響からか、1990年から湖は完全には結氷しなくなり、300～400羽が越冬するため、10月から5月までの8カ月、コハクチョウが滞在し、日本で一番長く白鳥が見られる湖となる。1998年の春のピークは、22,000羽まで増えていたが、稚内市大沼へ渡りのルートが分散した事もあり、近年は4,000～5,000羽となっている。

湖に広く点在する白鳥の殆どが、湖で水草を採餌しており、湖の外へ採餌に出かけることはない。飛来数の半分程が給餌場となる水鳥観察館付近に集まる。

(選定協力員 小西 敢)

・ 屈斜路湖 (2153) ・ 弟子屈町

43・34・26N

144・20・47E



屈斜路湖・砂湯

屈斜路湖・コタン

1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	312	293	385	157	459	321
コハクチョウ						0
類合計	312	293	385	157	459	321

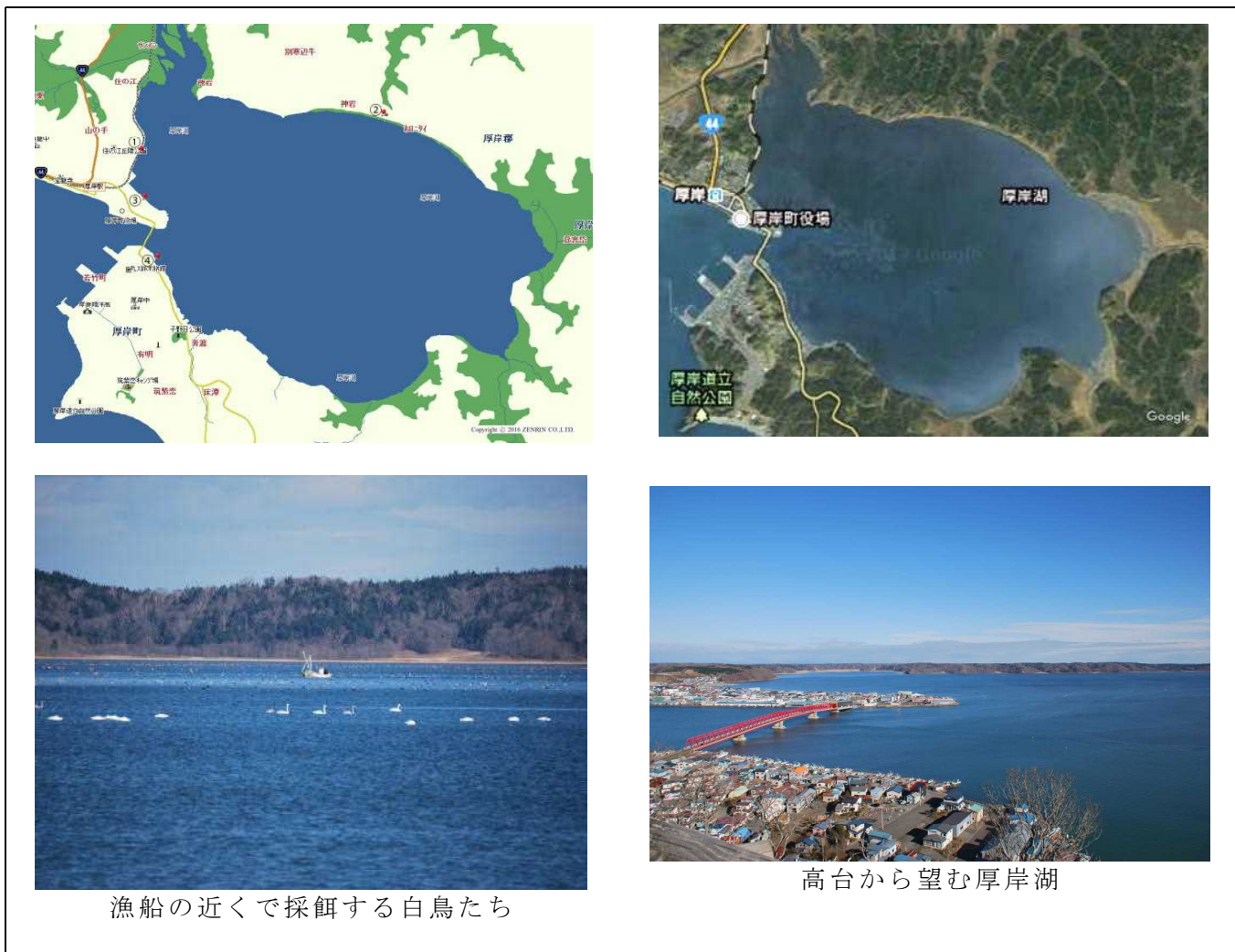
2. 選定地の状況

北海道東部に位置し、1934年に阿寒国立公園に指定された湖。10月～4月までオオハクチョウが飛来しており、特に湖が結氷する12月からは、温泉の熱で氷がとけるため、砂湯地区に集まり近くで観察できる。砂湯には、売店や駐車場が整備され、観光客も多く白鳥観察地となっている。この他にも仁伏やコタン、和琴半島にも白鳥が集まっている。コタンや和琴半島には、無料の露天風呂があり、目の前に来る白鳥を眺めながら入浴することができる。砂湯やコタンでは、野菜等の給餌が行われている。雪のない11月頃には、周辺の畑で採餌している群れも見られる。2月の厳冬期には、湖の氷が膨張して隆起する御神渡りが見られ冬の名物となっている。

(選定協力員 小西 敢)

・厚岸湖 (2143) ・ ・厚岸町

43・3・15N 144・51・6E



漁船の近くで採餌する白鳥たち

高台から望む厚岸湖

1. ハクチョウ類飛来状況 (20011 年～ 2015 年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	830	781	1,093	638	1,367	942
コハクチョウ			0			0
類合計	830	781	1,093	638	1,367	942

2. 選定地の状況

北海道東部の厚岸町に位置し、1993 年に別寒辺牛湿原と共にラムサール条約に指定された。国内有数のオオハクチョウの飛来・越冬地で、10 月初旬に飛来しはじめ、12 月になると 5-6,000 羽が飛来。主に別寒辺牛川河口や厚岸湾に近い湖尻に集まり、アマモ等の水草を食べて生活し、一部は厚岸湾のオオアマモも採食している。12 月中下旬に湖が結氷しはじめると一部は本州等へ南下し、1,000 ～ 3,000 羽程となる。3 月中旬になると越冬していた白鳥も北帰を始め、一時的に数が増えるが、4 月上旬には殆ど飛去する。この数年は、飛来数の変動があり、ピーク時でも 3,000 羽程の年もある。給餌は行われておらず、自然な姿を見る事ができる。湖の南西部のチカラコタン付近では、近くで観察できる。国道 44 号沿いに厚岸水鳥観察館があり、水鳥などの情報が得られる。

(選定協力員 小西 敢)
協力：厚岸水鳥観察館

・火散布沼 (2149) ・ ・浜中町

43・1・51N 145・1・28E



遠くで採餌する白鳥と沼の様子



自然の餌を食べる白鳥たち

1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	640	528	478	351	400	479
コハクチョウ						
類合計	640	528	478	351	400	479

2. 選定地の状況

北海道東部の浜中町の南西に位置し、霧多布湿原・藻散布沼と共に 1993 年にラムサール条約に指定されている。オオハクチョウの中継地・越冬地となっており、10 月初旬に飛来し 3 月下旬まで滞在している。12 月にピークを迎え、1,000 羽以上が飛来する。海岸に面した沼は海水の流入があり、冬でも完全には凍結しないため、数百羽が越冬している。渡りのシーズンや越冬期も約 1km と近い藻散布沼や約 4km の距離にある厚岸湖と行き来しているものと思われる。給餌は行われておらず、自然の姿が見られるが、沼の地形が複雑で道道 123 号線側からしかアクセスできない事と白鳥たちが分散しているため、望遠鏡などの観察用具が必要となる。

(選定協力員 小西 敢)

・静内川(1765)・・・新ひだか町

42・19・46N 142・22・8E



オオハクチョウ (2014年1月14日)



古川・オオハクチョウ(2013年2月10日)

1. ハクチョウ類飛来状況 (2001年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	91	215	88	91	228	143
コハクチョウ						
類合計	91	215	88	91	228	143

2. 選定地の状況

北海道南西部、日高地方新ひだか町静内に位置する二級河川。海洋性気候で温暖な上、河床に日高山脈伏流水が湧くので結氷せず、北海道内河川中ハクチョウ越冬個体数が最も多くオオハクチョウ等の水鳥が多い。

越冬期間は11月～2月。個体数は多い時に300羽を超えるが、平均すると約150羽程度。

種類は、1987～1998年までの11シーズン、アメリカコハクチョウ1羽が越冬したこともあるが、殆どがオオハクでコハクは珍しい。また、市街地を流れる古川は、長年の住民活動により水質が戻り、ミクリ等の水草が豊富でハクチョウが静内川との間を往来する。

温暖小雪、冬の娯楽が少ない静内でハクチョウ渡来は、多くの町民が楽しみにしている。

サケが産卵、死骸を求めるオオワシ、オジロワシ個体数も多く、道東・道北に次ぐ越冬地となっている。

(選定協力員 谷岡 隆)

・ 濤沸湖 ・ ・ ・ 網走市

43・57・1N 144・21・19E



越冬中の白鳥



濤沸湖の白鳥と斜里岳

1. ハクチョウ類飛来状況 (20011 年～ 2015 年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	166	112		58	72	82
コハクチョウ						
類合計	166	112		58	72	82

2. 選定地の状況

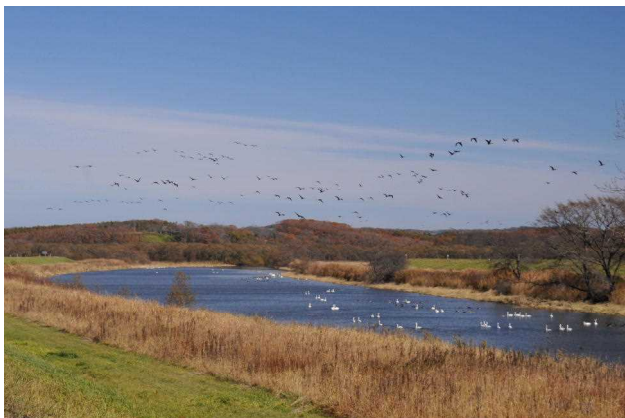
北海道東部のオホーツク海側に面した湖で、網走市・小清水町に位置し、2005 年にラムサール条約に指定された。主にオオハクチョウの飛来地で、10 月上旬に初飛来し 11 月中旬から下旬にかけてピークを迎え、年により 1,000 羽以上飛来してくる。西側にある白鳥公園や濤沸湖水鳥・湿地センター付近には、200 羽以上集まる事もあるが、近年、給餌が中止された事もあり、1 月に湖が凍結する頃には、数が減少し凍結の状況により 0 羽となる事もある。3～4 月にかけて湖の氷が解け始める頃に再び白鳥の数が増え始める。以前は、餌として食パンが販売されていた事もあり、人を恐れず近寄って来る個体もいたが、現在は、野鳥たちとの適切な距離を保つため餌やりは禁止されている。数は少ないが、コハクチョウも毎年飛来する。約 2km 離れた藻琴湖にも同じ時期に白鳥が見られる。

(選定協力員 小西 敢)

協力・写真提供：濤沸湖水鳥・湿地センター

・十勝川(1900)・・・帯広市

42・55・516N 143・13・33E



十勝川流域 (2015年10月19日)



ハクガン (2015年11月16日)

1. ハクチョウ類飛来状況 (20011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	107	54	21	84	163	86
コハクチョウ						
類合計	107	54	24	84	163	86

2. 選定地の状況

北海道道東部に位置、広大な流域面積は全国 6 位、北海道 2 位。流域に大小の河跡湖も多く大河の雰囲気を持つ一級河川。

中流域、河口域は十勝平野で畑作による国内有数の食糧基地。デントコーンなど豊かな食性環境を有することからオオハクチョウ、ヒシクイなどガン類の春・秋の中継地として重要な役割を併せ持つ。

種類は、コハクチョウは少なく大半がオオハクチョウで、渡来時期は 12 月初旬頃から 3 月中旬。年により変動するが、オオハクチョウ 80 羽程度が越冬する。

また、近くにある育素多沼（豊頃町）、長節湖（豊頃町）、湧洞沼（豊頃町）、生花苗沼（大樹町）などの湖沼群は手付かずの自然が残っておりねぐら、採食地としてオオハクチョウなど数多くの水鳥たちが春・秋に立ち寄る。

(選定協力員 谷岡 隆)